部活動改革と心田開発　第十四回

～ありがとう！パレット（中編 2020-2021）～

齊藤 勇

全国一斉休校 コロナ禍での地域部活

本連載の第十三回に続き、日本初の文化系・地域部活動の六年間を綴る「ありがとう！パレット」の中編、二〇二〇年春からの二年間を振り返ります。この期間が、外的要因と主催団体の内的要因の両面で、パレットにとって大きな分岐点になりました。

二〇二〇年初頭、日本をパンデミックが襲います。緊急事態宣言が発出、全国一斉休校になりました。未曽有の事態に直面するも、すぐに「テレブカツ」＝テレワークの部活版を休校中の四月と五月、ダンスや音楽など計十回、リモートで実施。パレットは立ち止まることはありませんでした。

2020年5月 テレブカツ
ダンスプログラム（部員の自宅と接続）

そして学校が再開された六月、体験入部が始まります。感染予防対策のため、上級生は二つのグループに分かれ、会場参加と自宅からのリモート参加の併用式で一年生を迎えました。

2020年6月2日 体験入部 初日
会場は美感ホール、写真右後方のスクリーンはリモート参加の部員

アートやＩＴが部内に新設されたこともあり、二三名の一年生が入部したのです。

イベント中止の余波と部内の覚醒

前編で取り上げた二〇一九年秋、大日本報徳社での創作劇 野外公演が好評を博し、翌年春の報徳社主催行事と、秋の全国報徳サミット掛川市大会での創作劇再演の依頼をいただいていました。ところが感染拡大で、いずれも中止。そこで対策を施し、九月に地域部活プレゼン＆パフォーマンスを開催する中で再演が実現。内容も屋外ロケの映像とホールでの実演を融合。劇中の挿入音楽のピアノ生演奏と演劇のコラボにも挑戦しました。

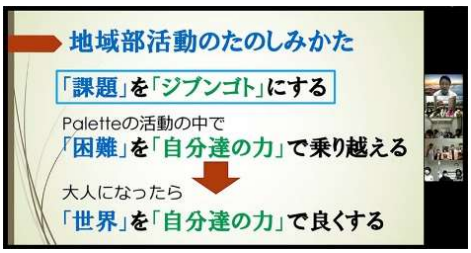
2020年9月26日
地域部活イベント・リーフレット

部が転換に至る外的要因はパンデミック。もう一つの内的要因は主催団体が変わること。創部時の音楽文化振興の主催団体が解散。九月の行事は、パレットが任意団体として主催。翌年のＮＰＯ法人創立に向け、中学生による自治的な活動の色合いを更に強めていく過程の中で、ある種の覚醒が起こります。

年度末、卒業する一期生を送る謝恩会を開催。イベントの裏を担当する舞台監督や助手も、これらの行事で成長していきました。

二〇二一年、部活動を自分たちで創る！

ＮＰＯ法人 日本地域部活動文化部推進本部（ポッカ）創立後、四期生を迎える体験入部の中で由井一成先生（早稲田大学講師）によるシティズンシップに関するオンライン・ワークショップを行いました。課題をジブンゴトとして捉えるなど、当事者意識の重要性に気づいたり、考えたりする学びの場になりました。ここからパレットは「部活動を自分たちで創る！ 社会も自分たちで創る！」をスローガンに掲げます。前年からシティズンシップを重要視してきましたが、ポッカ主催になり、この点を一層明確に打ち出していきます。



2021 年 4 月 22 日 体験入部
オンライン・ワークショップのスライドより
講師：由井一成（シティズンシップ研究）

「掛川の中学生の部活には、学校部活動と地域部活動の二つがあります」と、学校で案内されたことにより、この二年間で、二年生と一年生、計四二名の部員が、市内の七つの学校から参加する部活に発展。新入部員の中には、表現ジャンルだけでなく、制作や運営を希望するメンバーも入部しました。

正式入部後、大型連休明けから本格的に活動を開始。入部して間もない五月二二日、ポッカ主催の地域部活プレゼン＆パフォーマンスに臨みました。ここで、未来につながる大きな飛躍の芽を息吹くことになります。

報徳に根差す地域部活動の姿を提示

五月二二日、「地域部活動が示す未来創造へのビジョン」と題して開催。

第三部・プレゼンステージでは、ソロ・ヴォーカルから始まり、ポッカが作曲を委嘱したオリジナル音楽の電子オルガン生演奏にのせて、メンバー考案の創作ダンスを披露するなど、まさに万象具徳の要素満載。プレゼンでは、生演奏の四連打二回にあわせて「地域部活」と「一円融合」の四つの文字を画面に投影。さらにプレゼンの画面と会場配布のリーフレットに「かつて、一本の剣を手に覇権を競った時代があった」、「そして、一本の鍬を手に荒廃した六百余りの村々が自力復興を遂げた時代があった」の二つを提示。当時中学二年のパレットメンバーによる自作のイラストと共に、対比的に表現。

2021 年 5 月 22 日
主催者あいさつ（筆者）
後方の画面は一本の鍬の絵

イベントの舞台裏まで全て中学生が創る姿に、来場した芸術祭担当の市職員が驚嘆。それが、この年の秋に開催する地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ二〇二〇＋一」の学生による企画制作へのオファーにつながっていきました。

2021 年 5 月 22 日 配布リーフレット
見開き 2 頁に掲載の部員自作のイラスト
一本の剣と一本の鍬を対比的に表現

二〇二一年秋、一年延期の地域芸術祭と全国報徳サミット掛川市大会が同時開催。本連載の第五回（二〇二三年八月号）で取り上げた通り、驚異的な飛躍を遂げていきます。